

ほん屋

8号店

2017(平成29)年6月 店主:仲村・久高

こんにちは。梅雨時&試験後でまったりしがちなこの時期、今年度の「ほん屋」が始まります。「ほん屋」では様々な本を紹介しますので、気になる本があればぜひ図書館へ足をお運びください！

※この発刊紙は、学生が作るニュース(図書館発行)です。
 “ほん屋” of the students, by the students, for the students.

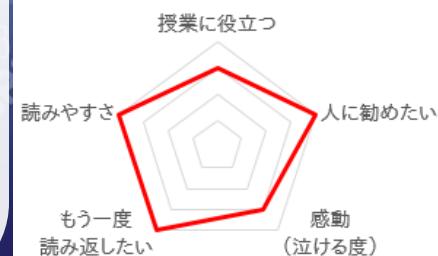
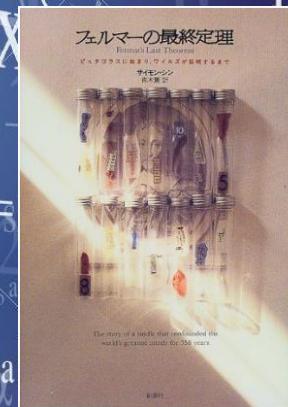
ブックレビュー紹介

沖縄高専の“あの人・この人”が本の紹介をします。

機械システム工学科 教授 眞喜志 治先生

『フェルマーの最終定理』(サイモン・シン)

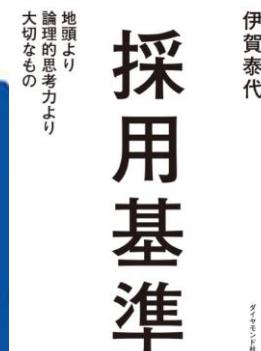
文字通り、あの有名なフェルマーの最終定理とそれを証明した数学者をメインとしてストーリーが展開するのですが、この証明に挑戦した数多くの人物、用いられた数々の定理、歴史に名を残す数学者たちに纏わるエピソードを織り交ぜながら物語が進むので、数学の面白さ、奥深さを知ることができ、改めて数学の重要性を認識することができました。僕のように数学が苦手な者でも「どこかで道を踏み外して、数学者を目指す人生を歩んでいたかも」と数学に対する憧れを抱かせる一冊でした。



生物資源工学科 教授 田中 博先生

『採用基準』(伊賀泰代)

「リーダーシップ」とはひとり一人が発揮し、大きく育てることができる力で、その「色」や「形」や「大きさ」はひとり一人が違う、ということがよく理解できました。ひとり一人のリーダーシップを集めたら、どんな「色」の、どんな「形」の、どんな「大きさ」のリーダーシップになるのか？チームの数だけ、組織の数だけリーダーシップがあり、ひとり一人のリーダーシップを鍛えるほどにチームのリーダーシップは大きく変化する。心の底から共感した私は著者の伊賀さんに直談判、2014年1月29日に来校いただき、多くの学生を刺激しました。「提案」して「行動」する、これが私色のリーダーシップです。



最近のニュースに関連する本の特集



今回のテーマ

『アルファ碁(AlphaGo)』

囲碁AI、世界最強棋士に3戦全勝 人間対AIに決着

囲碁の世界最強棋士と人工知能(AI)が戦う三番勝負の最終第3局が27日、中国浙江省烏鎮(うちん)で打たれ、米グーグル傘下の英ディープマインド社が開発したAI「アルファ碁」が中国の柯潔(かけつ)九段(19)を破り、3戦全勝でシリーズを終えた。囲碁は着手の選択枝の多さからAIにとって最難関とされていたが、チェス、将棋に続いてAIが完勝。1対1で戦うボードゲームでの人間対AIの戦いに、決着をつけた形となった。(烏鎮=大出公二)

朝日新聞DIGITAL 2017/5/27の記事より

アルファ碁は、畳み込みニューラルネットワーク(CNN)とモンテカルロ木探索を組み合わせたアルゴリズムにより動作しています。加えて強化学習により、訓練を行っています。これが強さのポイント！

主に囲碁や、機械学習・AIに関する易しめのわかりやすい本を集めてみました。よく知らない人もこれらの本を読めば、アルファ碁の仕組みや強さの秘密を知ることができるかも...!?

『コンピュータ囲碁』(美添一樹・山下宏)

囲碁を題材として、モンテカルロ木探索の説明を行っている。コンピュータ囲碁の一通りの処理の流れをプログラム付きで見ることができる。



『機械学習と深層学習』(小高知宏)

機械学習について体系的に解説されている。また、C言語プログラムが載っているため、実際に手を動かしながら機械学習を学ぶことができる。



『まるわかり! 人工知能 最前線』(日経コンピュータ)

AIを利用した様々な製品・事業の記事が多数掲載されている。そのためAIに関して、現在どのような状況なのか知ることができる。

他にも、ほん屋ブースに設置してます！



『ゆかり先生のやさしい囲碁 初級編』(梅沢由香里)

囲碁の基本から知ることができる。丁寧な解説がされており、これから囲碁を始めてみたいという方におすすめの一冊。

✓ 館内は飲食禁止ですよ!

ごみはゴミ箱に。時々、館内にお菓子の包み紙が落ちていたり、紙パック飲料の忘れ物があったりします。

気をつけましょう。

店主のつぶやき

前期も半分を過ぎ、そろそろ暑くなってきました。新学年の生活にも慣れてきた頃だと思えます。涼しい図書館で、ゆっくり読書や勉強をするのも良いのではないのでしょうか。

「ほん屋」2周年目もよろしくお願いいたします！
See you next issue!